

各 位

会 社 名： 株式会社タツミ  
 代 表 者： 代表取締役社長 伏島 利行  
 コード番号： 7268 東証スタンダード市場  
 本社所在地： 栃木県足利市南大町 443 番地  
 問合せ先： 常務取締役 木村 英典  
 電話番号： 0284-71-3131

## 上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2021年11月9日、スタンダード市場の上場維持基準への適合に向けた計画書を提出し、その内容について開示しております。2023年3月末時点における計画の進捗状況について、下記のとおり作成いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 当社の上場維持基準への適合状況の推移及び計画期間

当社の2023年3月末時点におけるスタンダード市場の上場維持基準への適合状況は、その推移を含め以下のとおりとなっており、流通株式時価総額について基準を充たしておりません。当社は、表1のとおり2025年3月末までに上場維持基準を充たすために、引き続き各種取組を進めてまいります。

【表1】当社の上場維持基準への適合状況

		株主数	流通株式数 (単位)	流通株式時価総額 (億円)	流通株式比率 (%)
当社の適合状況及びその推移	移行基準日 (2021年6月30日時点)	691人	15,302単位	5.2億円	25.5%
	2023年3月末時点	711人	16,274単位	4.1億円	27.1%
上場維持基準		400人	2,000単位	10億円	25.0%
当初の計画に記載した計画期間				2025年3月末	

※当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

#### 2. 上場維持基準の適合に向けた取組の実施状況及び評価（2021年9月～2023年3月）

##### 【流通株式時価総額】について

##### ① 新分野、新規取引先の開拓による受注拡大

##### ・新分野参入に向けた専任者の配置

既存の輸送用機器事業分野以外の分野（医療及びロボット部品等の産業用機器）への進出を図ることを目的として、2021年9月から専任者を配置し活動を開始しました。

しかしながら、試作品等の供給は行って参りましたが、量産供給には至っておりません。引き続き輸送用機器事業分野以外への参入を目指し、営業活動を行って参ります。

尚、輸送用機器分野におきましては、2021年度末より日本国内において新規取引先1社との取引を開始しました。また2023年度後半には、新たに自動車向け緩衝器用部品の量産供給を開始する予定です。またメキシコ子会社におきましては、2024年度末より新規取引先1社との取引を開始し、電動車向け部品の供給を開始する予定です。

##### ・自動ブレーキシステム部品の新規受注・生産開始

2021年9月よりメキシコ子会社にて、北米市場向け電動パーキングブレーキ部品の生産

開始により、売上影響額は320百万円となりました。尚、2023年4月から2025年3月までの連結売上高においては、更に約8%（年間）の売上増を見込んでおります。

② 不採算製品の見直し、ビジネス撤退

- ・不採算製品の見直しについては、不採算製品並びに採算の悪化した旧型品を中心に売価改定を実施。前期に対し営業利益率1.2%改善しました。また2023年度におきましても、一部のお客様と不採算製品の売価改定に合意済みであり、今後も継続して不採算製品の売価改定に取り組んで参ります。
- ・不採算製品からの撤退ですが、2019年度に量産を開始したものの、収益悪化の原因となっていた製品を、昨年10月末を持って供給を終了。これにより営業利益率は、前年度に対し1.7%改善しました。
- ・IoT活用・ロボットを活用した自動化を進め、生産性は、2021年度比9%向上 又、省人11名を実施、次年度においても8名省人を見込んだ自動化計画を進めております。

③ 新規技術開発

自動車部品の受注拡大や新分野の受注獲得に向けた技術開発として、

- ・自動運転に向けた軽量化部品の開発（樹脂・ステンレス・アルミ等）
- ・半導体製造装置等に用いられる耐食・耐熱材の加工技術開発を行いました。

新分野となる樹脂成形分野では、鉄鋼製部品をインサート成形した高精度遊星歯車を開発し、顧客要求レベルを満足する段階までできています。

ステンレスの分野では、クルマの電動化に用いられる熱マネジメント系製品（新規顧客の次世代商品）に搭載する部品を冷間圧造技術と切削・研削加工により開発・製造し、顧客の研究開発段階に供給しています。

部品の軽量化では、軸付きスパーギヤなどの中空化冷間圧造技術開発を行っており、プロトタイプ開発から量産化に向けた開発を行なっている段階にあります。

極めて加工難易度の高い耐食・耐熱材の加工技術開発では、ニッケル合金の塑性加工や切削加工開発を行ない、受注獲得を目指している段階にあります。

### 3. 上場維持基準に適合していない項目ごとのこれまでの状況を踏まえた今後の課題と取組内容

#### 【流通株式時価総額】について

(1) 今後の課題

① 株価の向上

当社は、一定の株主数や流通株式数を確保しながらも「流通株式時価総額」が基準に達していないのは、「株価」の水準が主たる要因であると捉えております。株価向上の為には業績を向上させ企業価値を高めること、および株式市場での適正な評価を得ることが重要と考えております。

② 流通株式数の拡大

流通株式数および流通株式比率は基準に達しておりますが、今後も取引銀行を始めとする株主様との持ち合い株式を含め縮小し、流通株式数および流通株式比率を拡大することが必要と考えております。

(2) 取組内容

① 株価の向上に関する取組

上場維持基準の適合に向けた取組を引続き実施し、2025年3月期までには収益を改善し、確実に配当を行い、株価向上を目指します。

② 流通株式数の拡大に関する取組

流通株式数および株式流通比率向上に向け、現在まで安定株主として当社株式を保有いただいている取引銀行を始めとする株主様との持ち合い株式を含め縮小してまいりました。その結果、流通株式数は97,200株増加、流通株式比率は1.6%向上しました。

以上